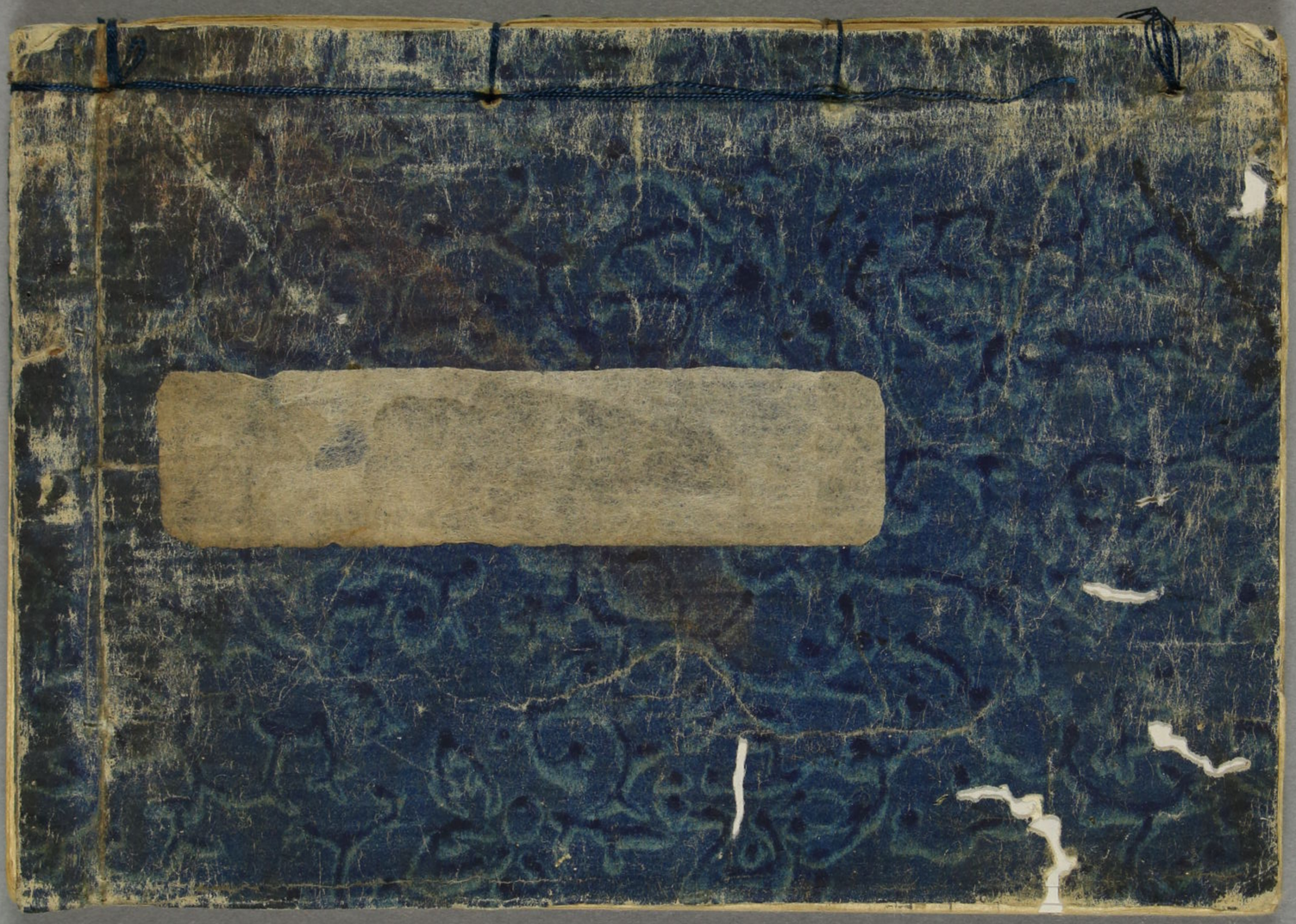


曉晴翁著
松川半山画

淀川両岸一覽

上船中巻

二冊

東京都立中央図書館蔵書

夫游浪花必買船以澱水
之間探沿江諸
江山之勝未暇
區也須日鶏鳴舍三人被示世
著偶又遊浪華携而
舟中被圓之間百里長堤

邨落祠觀名區舊墟目迄
而送之〻詳悉惜長流〻
將畫史留家及謝而還之自
今及下凝於人〻必携一本莫
主人〻賜為多也固慧通刻
之若夫賈人佔密必便在航
迢〻江水數寫夢於嗟來賣
食聲一固勿論也
安政丙辰三月飄〻人題

應需李陽書

柳蘭

凡例

一 此書は浪花より京師へ舩にて登る淀川筋の西岸の地名と初めて見る寺社及び名所古跡を著し且其風景絶佳なる所々を悉く出し舩宮の壓とする者

一 西岸と一圖にうつさんとすれども甚委しからざるもの多し右は鄙の狹き地あり

一 右は美景ありて右は川添の堤のみなるも有て書畫風流なるもの多し舩中より見るもの右と書畫とは其順に一覽せしむれば前の二巻は上舩の右と後の二巻は下舩の右を重く取る上舩の巻々は下舩の左より下舩の巻は上舩の左に心得べし文も又准之舩宮に入れと図に多へば舩長に問べして西岸と委く知べし

浪浸長橋二百弓春陰未霽是何虹金城巻雨呑斜日碧殿穿雲飛大空千店周圍撲地列一條周道到京通年々眺望思無盡南國魚鹽壓洛中

洞雲

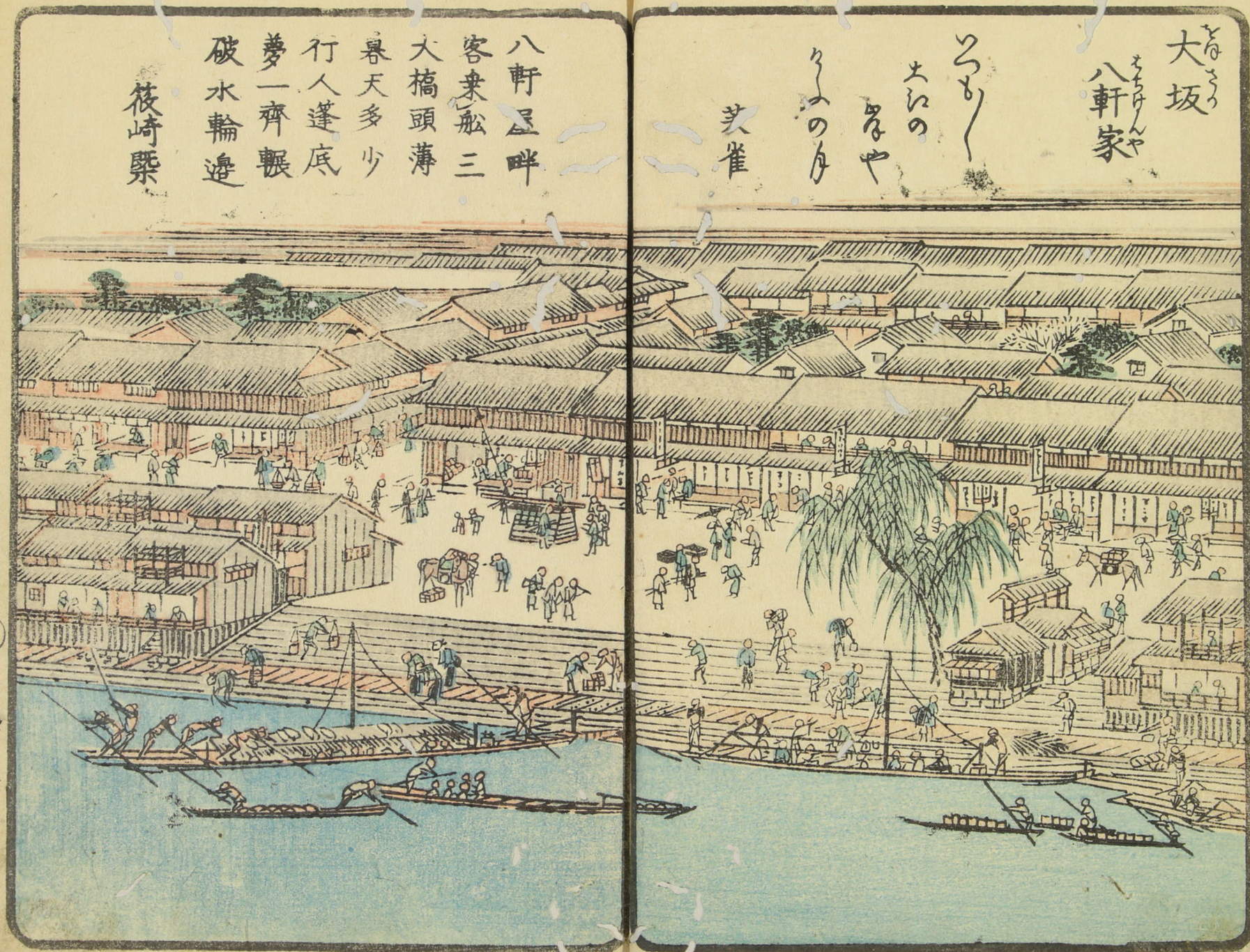
大坂
八軒家

うもれ
大江の
なや
くれの月

芝雀

八軒屋畔
客来船三
大橋頭薄
暮天多少
行人蓬底
夢一齊輾
破水輪邊

筱崎槩



大坂　難波津とも浦海浮江里とも紫波人難波男難波女ともの古称なり
又浪速國浪華ともい神武帝の御宇よりの古名なり

大坂とも號上古より聞えぐ按ずるに大江坂の畧訓なるべしと
説のまさるべしこの大江は難波江の一名にして人王十七代
仁德天皇第一の皇子と大江伊耶本和氣命と申す　受禪の後は
稱ず則十八代の帝なり　此時大江の号初て開ける　抑當津は海陸の都會天下の
要衝にして西州の喉口　皇州の阃域なり群峯右に繞を平野左に
連なり激水内に貫き江海外に抱く山川の明麗田野の壤腴海
濱の廣斥澤國の佳致にして他邦に類せぐ故に諸國の米穀材
石及び和漢の雜貨ども着船して朝の市暮の市街に闐
〻縱横四衢の賑〻さ事海内に冠たり

難波橋　浪花三大橋の一なり南詰は船場北濱より北詰は西天満に架せり
長さ百十四間六尺欄檻天弓のごとくに連りもっぐる壯觀なり

山州淀河の下流浪華に入天満川と号て當橋の下より中の島を
分遶て北と裏川とひ南と土佐堀とに世俗俱に大河と呼ぶ
中の島の東の寄と山崎の端と号て此所より東方の瞻望佳景に
風流の貨食家富家の隱居所などありて無雙勝地なり夏夕は
納涼の遊船水面に充滿て橋上の往来両岸の茶店繁昌事

言も尽しがたし　獅子堂云橋は百丈にして水面に流れ日は金城の上に出て影孤舟を沉む藤は此所と沼尻第一の美景といへり

よ橋しきみ仏ぬりの云云

長き夜も明ぬ難波ぶし　獅子堂

金相場濱　難波橋の南詰東側北濱一丁目より

浪花市中の両替屋日毎に多く集り金の賣買とす　相庭と立て金の價を定む沼尻の一奇なり

築地　蟹島ともいへり　此地は僅の地所なれども旅宿貨食家貸座敷などいりくみ流れも清らかに風流なり　天明三癸卯年堀地あらため今のやうなる繁昌の地となれり

東堀　築地の端より大河を引て南に流れ天正十三年秀吉公築き給へる東横堀より築地に入此堀を架する橋を葭屋橋といふ東西と京橋六丁目とにて壮観なり南詰は京橋六丁目北詰は東天満十丁目とにて

天神橋　難波橋の上にあり川上より第二の大橋なり長さ百二十二間三尺高欄

當橋の通は北は十丁目條より長柄に通ず　京師に登る西街道なり

至て南は松屋町通より下寺町に至る道條なり　都鄙の行人往返引もきらず恰も櫛の齒とひくが如し　殊更北詰は青物の市場にして朝毎の群集雲霞のごとく甚賑ひ言語に絶す天満宮参詣の通路なるが故に斯は号るものなるべし

八軒家　天神橋南詰の東にあり京師上下の船着にて旅宿のさと連なり登夜にあり古名と十日宿といへり大坂古図に見へたり

京師への通船は浪花市中所々堀とのべども當舳岸と第一とする所謂
三十石の昼船夜船今井船は東雲の頃より漕と解く伏見より着岸の
早きと誉とする程より夜舟の下を速なる歌の内より着今井船の
一番は未明より發し七ツ半二番昼舟夜船の上を終船は凡丑の刻より
及べり又昼船の下りの遅きも和更と過ることなれば其間静なるを
僅に二時より過ぐ頃る繁花の地なり傳云此地は古歌より渡辺や大江の岸
と詠ぜし名所なりとぞ　委しくは摂津名所舊會大成に
出せばこゝに畧す

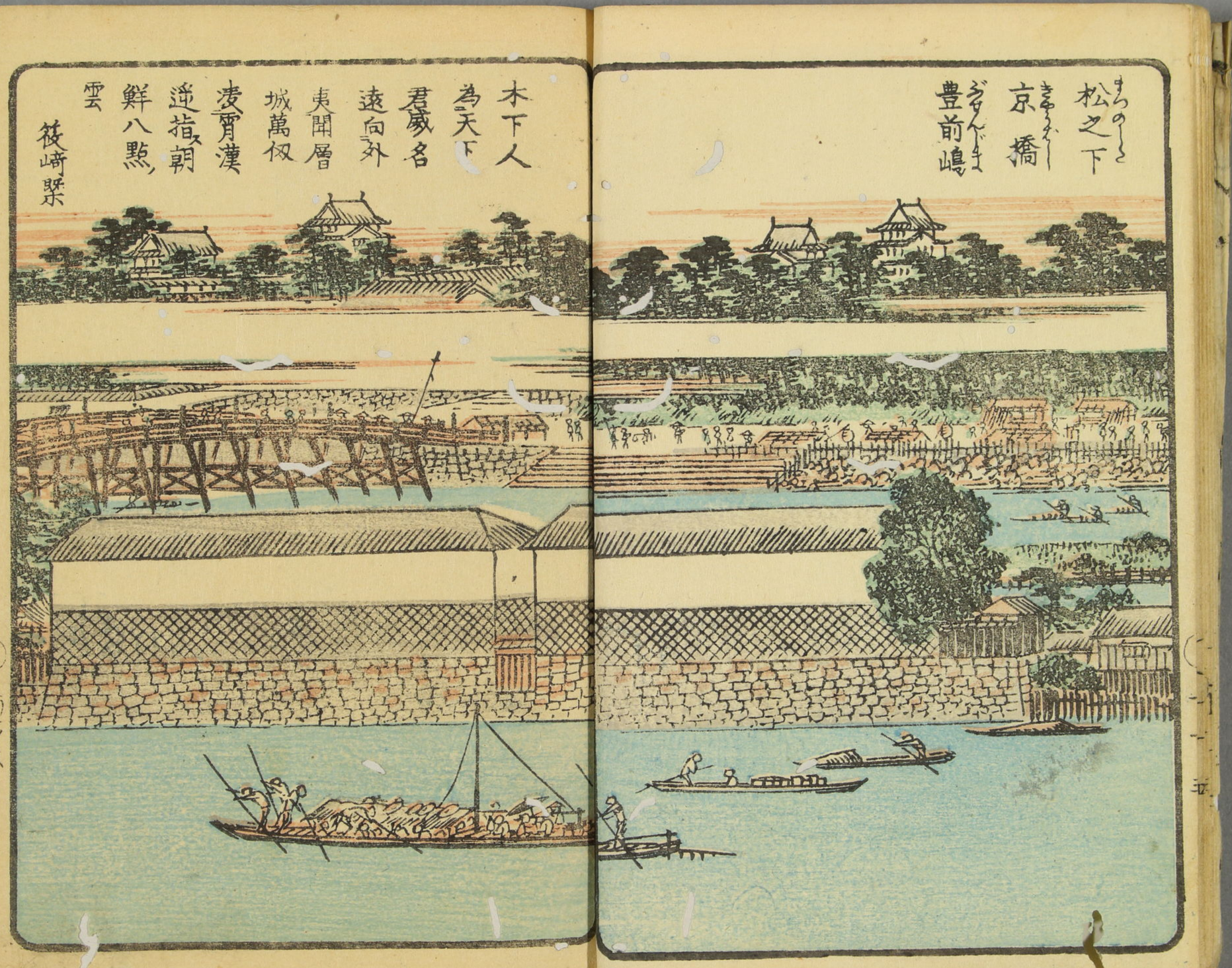
秋の夜ゝ天の川の岸もまぶらしく　茶夕

天満橋　八軒家の東にあり川上第一番の大橋なり長さ百十五間五尺高欄
魏々として壮観なり南詰は京橋二丁目北詰は天満二丁目へ云
大河筋又淀江川古大和川平野川猫間川等合流して
會に當橋なり天神橋雑波橋と以て浪花の三大橋と称す

今宵満つ天のたゝえを踏つゝ　淡々

松之下　天満橋南詰の東にあり一町余の間土堤に並木の松あり故に名とす
世人是を古地の小口と呼店茶店餅菓子酒煮賣ホの掛茶屋多し

此地は原京橋一丁目と号して人家建つゝけるを享保八年
所習ありて道頓堀吉左衛門町の素手へ移されより今の如く
明地となり吉左衛門町の後方と本京橋町と号ける此謂なり



松之下
京橋
豊前嶋

木下人
為天下
君威名
遠向外
夷聞層
城萬仞
凌霄漢
逆指朝
鮮八點
雲

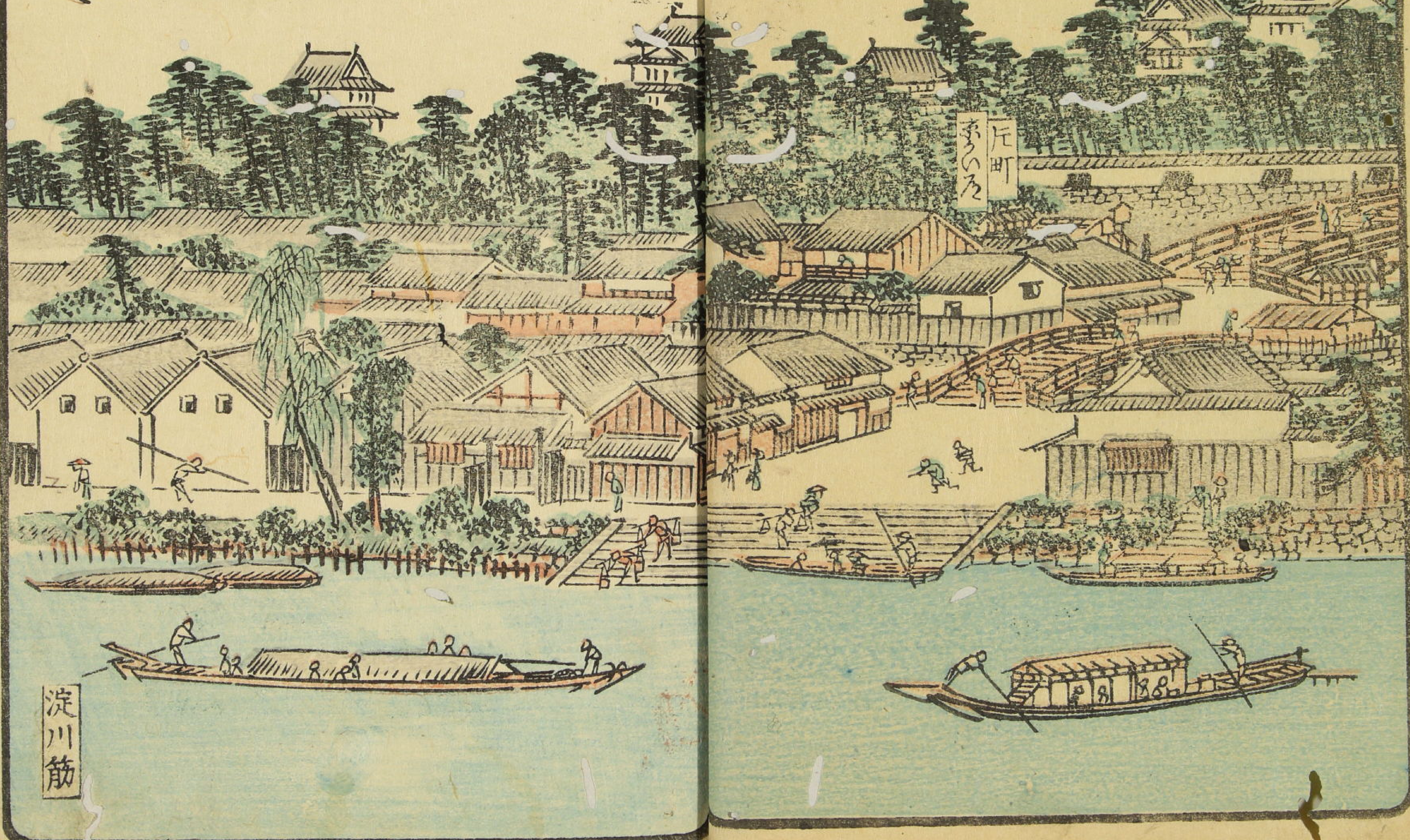
筏崎槩

船客の中にハまどろみの
夢をむすぶもあり又ハ三絃に
ひかれて数多の舟唄
あるハ浄るりを語り
又ハ中途より上陸
をなさんと欲する気色を
あらはしやがて八軒家の
八軒家にて三十石の
船に乗りて京へ行人
多く一ト余せざれバその
朝よりのぞミ似るを
告るとも聞えず船は
陸にて鶏鳴をきく
あり此所に宿りて京
へ帰るべし行きても給を
べき事ぞ

其二

京街道 片町

川崎 渡口



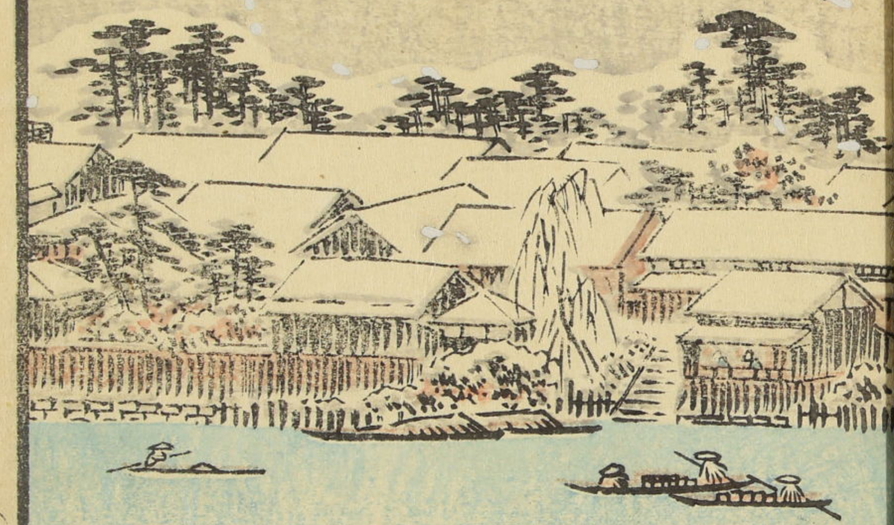
淀川筋

其三

網嶋

風急捲寒
濤空水黯
難別西北
雲纔開連
山悉作雪

釋慈周



其四

城北網洲
漁父鄉酒
樓宛在水
中央魚膾
蟹螯知不
乏妓舟維
得御絲長

荒井公廣

京橋 松の下の東にあり北詰と相生西之町と云 故大和川猫間川會流〳〵
俗に片町と云 京街道の喉口なり
橋下を歴て大河に入欄檻葱宝珠の銘に云元和九年造立云云
南方に金城巍々赫々たる松風萬歳と唱ふ北詰に朝毎に
川魚の市あり蹠更賑し此市場に清泉あり常に滿出
四面に溢る衆人數愛翫に此より東に至て野田橋と越野田町成
へ歴て野江村に出る則京師往還の本街道なり
備前島橋 京橋の北にあり鰻江川に跨る南詰は片町北詰は備前島町と云
此橋辺に過書の船番所あり八軒家より是迄水上九三町許
川崎渡口 右同所にあり此岸より天満の川岸に渡凡八十四間余と云
是より伝下渡しと号もるいづれも舟渡にて淀川を横ぎる

細嶋 備前島の東につゞく 細嶋町と云
此地は淀川の側なる故前に淀川の流れ潔く
浪花の通船釣船細舟遊楽の樓船終日往来し東に河内大和の
山々見えたり遠望おとゝ絶景なり程に富家の別宅雅人
の閑居風流の貨食家多くあり頗る遊楽の雅地なり原来此辺は
渓家多く常に軒端に細を干たりて細多と号けしなるべし
大長寺 右同所にあり浄土宗 京師黒谷に属す 本尊阿弥陀佛は恵心僧都の作なり境内に鯉墳
滝登鯉山と あり 兵に鯉鱗の奇なるもの有寺の什物にて縁起あり是なり 畧之
碑に刻
北へ堤づたひ凡三町ばかりゆきて櫻宮に至る左右樹多し

櫻宮 細島の北にあり 例祭九月廿日 所祭天照皇太神にして宮づくりの光景伊勢と換せり

當社は淀河の東岸にあり境内は言ふ更なり水辺より馬場の

堤に至るまでの一帯の櫻にて晩春の花の盛は雲と見雪と紛ふ

風景なり又西の河岸は川嶋より北につづきて長柄の里の遠

まぢに此も列木なれば川と狹く両岸の花爛漫として水ふ

映し川風花香を送りて四方に芳しきを程なく都下の老若

陸と歩し船みな通ひ訛ふあり舞ひ歌ひ紅日西に没するを知らず

実に浪花に於て遊宴の最上花見の勝地といふべし

接之波は石社頭の上の方にあり 此渡船は弥生の花の比のみ有て都は

川淵の淀の渡なり

櫻の樹のもとに号れ

源八渡口 右の後の上に有西成郡天満源八町より東生郡中野村へ

舟渡にて中野の後にも云淀の長さ九十間と云

源八とうりう梅のはなざかり 蕪村

○中野 右の渡の一村なり列櫻の宮は當村の内にて生土神なり

當村の農家は酒肴を販ぐ

あり其酒樽鄙にはなれ遊客をもてなし賞翫に就中泥鰌汁を

以て名物とす花の比と始て印月中旬を限とす

○澤上江 中野村の上にあり當村の五六町東に鶴墳といふあり其事実詳ならず

髮ふりかたち高貴の人と葬るべし

川崎
櫻宮
正格
翠峯

其二

櫻宮の西岸へ
天満の川岸より
登舟の水主ハ船頭
より上陸し木村堤と
長柄の三ツ曳まて凡一里の
間引のぼり来り船ハ
のりて東堤へよせる

真柳

緑なるとよ春
くれ
緑なるとよ春

川ぞいの
のぼり船

庭く 新と掃る
柳や
のぼり船

四柳亭

毛馬

第二度目武西より
上船の水子ホ上りく
赤川まで廿丁のろ引
のぼり来ろ船のりて
西堤よりせ堤の
三番ろ上りてさ
堤と平田の番所の
家と通り行くもでん
一里余とりて宮川と
流るるろふあふのろ
船ろ又ろ

上り毛堤とり上り
堤外と打こ三ヶ所まで
九二里ばかり行て是より
あふのろ十町ばかりこ
上りて本堤へよる

此辺りて保泊
ぢんぐーの巻ろあ
つきて船客さ
うれとすむ

毋恩寺 洋上江村にあり法皇山と号す浄土宗にて女僧住職なり 本尊阿弥陀佛立像長三尺許惠心僧都の作と聞き当寺の尼僧常に綿帽子を製るを主業とす其色清白にして美と好く名物なり世に名高し

○善源寺 洋上江村の上にあり善源寺村とよぶ 善源寺村の上にあり或は舳関とも書く

○友淵 友淵村の上にあり東生郡毛馬村より西成郡北長柄村への舟渡なり 渡の長さ百九十間と云

毛馬渡口

○毛馬 右渡場の上にあり備前島より此所に着賣船あり酒餅汁肴と 此所まで水上九三十町余

鬻くなり其風俗牧方に同じ 白き餅と串にさし焼て味噌をぬくなり 高麗田楽餅なり

○赤川 毛馬村の上にあり此地より上と出る世に赤川上と云なり 一説杜夫より名づけしなり今は絶なり惜むべし

○荻生 赤川村の上にあり

○上之辻 荻生村の上にあり

○中村 上の辻村の上にあり

○江野 中村の上にあり

○南島 江野村の上にあり

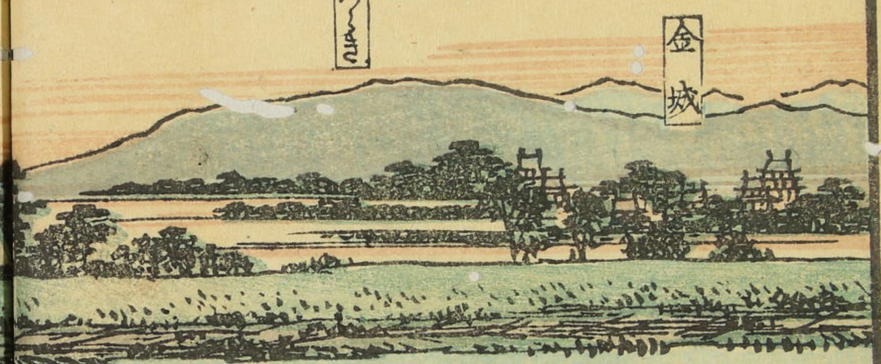
○森小路 南島村の上にあり

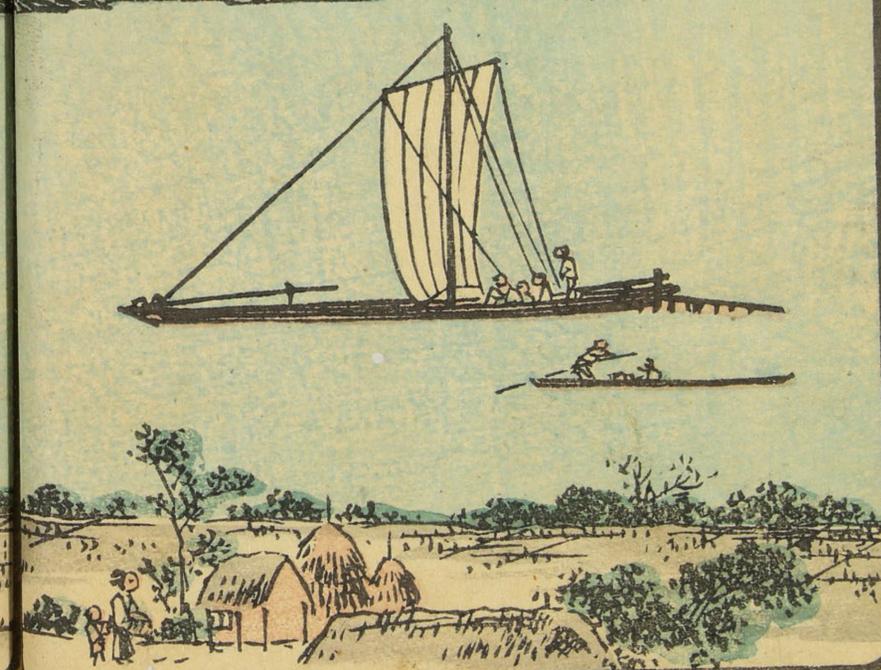
陸路街道 大坂野田町より野江関目茶屋を経て南嶋と森小路の間に出る是なり表小路今市土居守口を経て南十番。八番。七番。五番。二番。一番 佐太という足より多く河岸を行く 仁和寺。點野太間。木屋。松ヶ鼻。出口。伊加賀。投方。禁野。礒嶋。渚。下嶋。上嶋。樋之上。楠葉。橋本 樋之上美豆。淀 大橋 間小橋 小橋と越て淀堤五十町 下三栖なり伏見肥後橋に至る本街道と

あづま
赤川

野も山も
そめつ
あらしや
あらあらし

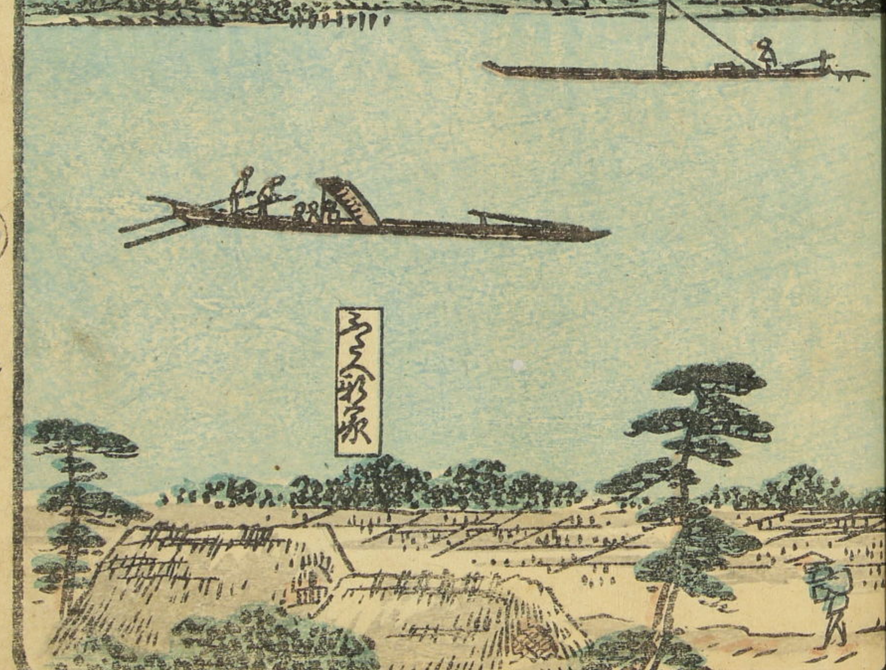
醒花

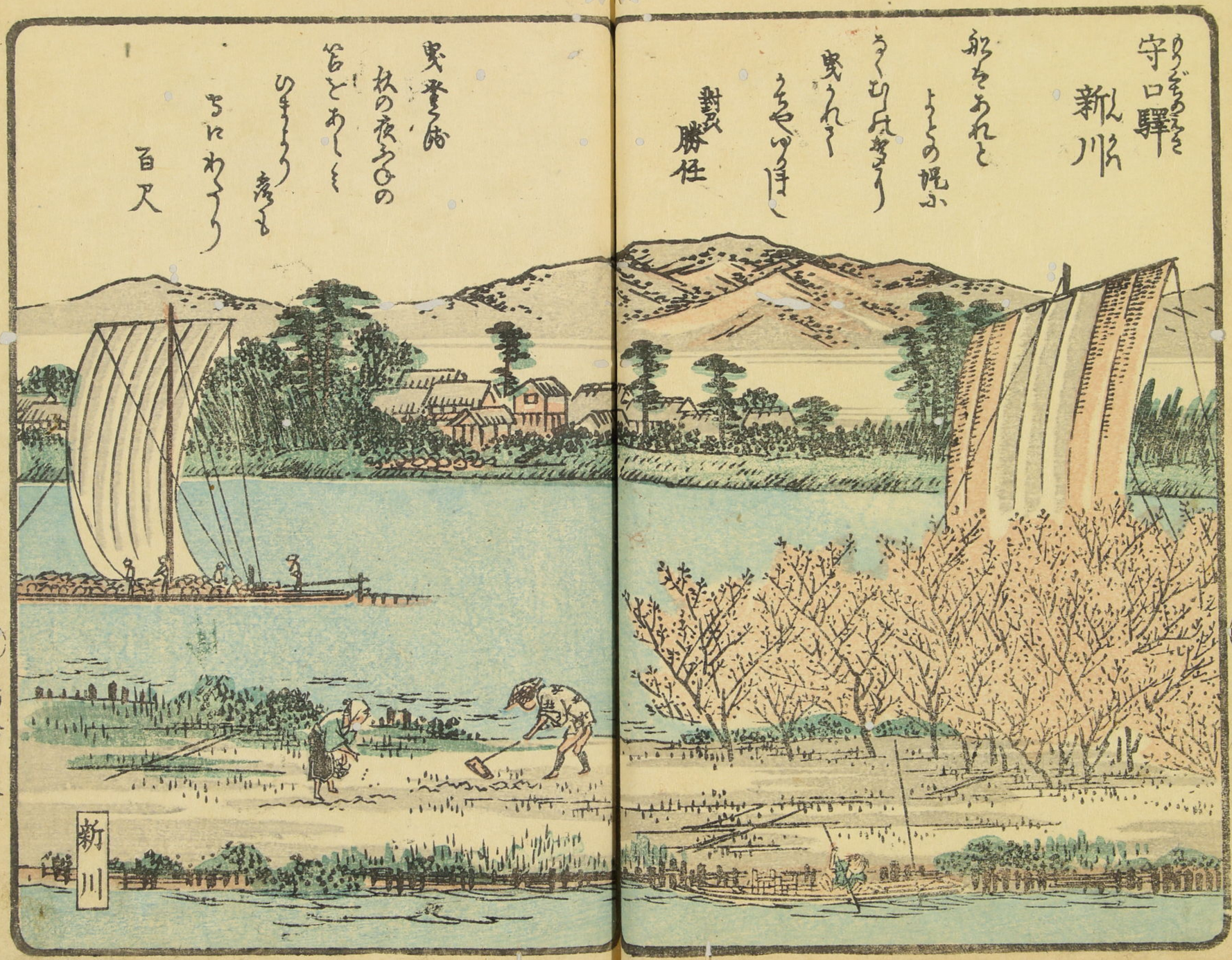




そを糸の
十三里ゆく
庄川よ
つまをたずねる
のり合の
ふね

江戸 家風




守口驛
新川
船をあれと
よるの堀ふ
勝任
新川

京ヨリ入或ハ竹田街道ト上ルモ又淀ヨリ冨士横大路下上の鳥羽ト経テ東寺四塚ヨリ出ルモ皆〳〵其方角の便宜ヨリ志ス〳〵

今市渡口　表小路村の上ヨリ東生郡今市村　○今市　渡場の一村ヨリ毛馬ヨリ此所まて水上九十一丁半余ヨリ西成郡平田村への船渡

攝河之國境

今市村土居村の間ヨリあり是より上ハ河州茨田郡なり是迄ハ攝州東成郡

○土居　今市村の上ヨリ　猿嶋　土居守口の間前ニあり島ト云　土居村の上ヨリ　土人中の嶋ト云　旧名竹門位ト云

守口驛　是より岸ヨリ京師ヨリ上る陸路の官道第一の驛　浪華ヨリ京師ヨリ上る陸路の官道第一の驛

歷　左町　野田町　野江　内代　関目　表小路　今市　土居　等ヨリ

ヨリ高麗橋ヨリ此地ヨリ至る行程二里

是ト本街道ヨリ東街道ヨリ

ヨリ程ヨリ傳舍軒トヨリ飯盛の女ヨリ食の支度ヨリ

夜の泊ヨリ引向屋場ヨリ人馬の掛引ヨリ馬夫雲助の声高ヨリ罵ヨリ

驛路の風ヨリ備ヨリ地方繁昌ヨリ

偖ハ長菜蕨の糟漬ハ當所の名物ヨリ世ヨリ守口醃ヨリ号ス

風味殊更ヨリ美ヨリ周云此長菜蕨ハ生ル時ハ宮前菜蕨ト号シ

往昔ハ攝州天満天神の宮前ヨリ田圃ヨリ時作ヨリ出セリヨリ

ヨリ宮前の号ヨリ然ヨリ小沼荒堀ヨリ潮ヨリ地ヨリ

今ハ宮前ヨリ更ヨリ宮後ヨリ數十町人家ヨリ此大根ヨリ當時ハ

長柄の辺ヨリ作ヨリ然れども尚旧名ヨリ用ヒヨリ宮前菜蕨ト称ス

余有と此守に求めて糟藏に製して守に渡す

○南十番　守口の上にあり陸路の街道は当村の傍を

下嶋渡口　南十番村の上にあり河州茨田郡下島村より摂州西成郡辻堂村へ淀川を船にて渡す辻堂の渡しとも云長さ百八十五間と云

○下嶋　或は十一番とも号す今市より是まで水上九丈九丁許なり　下嶋と八番との堺にあり

○北十番　下島村の上にあり

○九番　北十番村の上にあり

三社権現祠　此辺の生土神なり

○八番　九番村の上にあり陸路の街道なり

一津屋渡口　八番村の岸にあり摂州島下郡一ツ屋村より河州茨田郡八番村へ淀川を船にて渡す場の上にあり陸路の京街道なり渡の長サ三百三十間と云

○七番　右渡場の上にあり陸路の京街道なり

○六番は街道の外にあり

白い権現祠　六番村にあり相殿に春日明神を祭る当村ならび三番四番ホの生土神なり例祭九月廿日

○五番　七番村の上にあり街道の傍路へ

○二番　五番村の上にあり街道の順路なり

四番三番は街道の外にあり

津嶋部神社　延喜式に出金田村にあり嘉祥三年十一月従五位下と授く

当村は街道の外なり一番二番両村より通路あり

○一番　二番村の上にあり世に佐太と云此辺村一番より十番までの村名にあり一統に大坂金城要害の軍勢隊伍と立る名なりそ下島より水上九三十五丁許

佐太天満宮　一番村にあり此地の生土神なり

本社祭神菅大臣　御神体木像長二尺許御自作と云

例祭六月十五日九月廿日本社額佐くる天満大自在天神　二品親王良尚御筆なり

好文天神祠　本社の傍にあり

白太夫祠　好文祠の傍にあり

末社　一のもりの額は曼珠院良恕親王御筆稲荷　愛宕　手水鉢　井筒もは淀屋清内太郎寄附なり

勅梅　社前にあり後水尾帝より二枝の梅と賜ふ当社の神木に接木する迄又御製の和歌と賜ふる

家の風世々に伝へて神垣やすてとはぐ梅も白そ咲

後水尾院御製

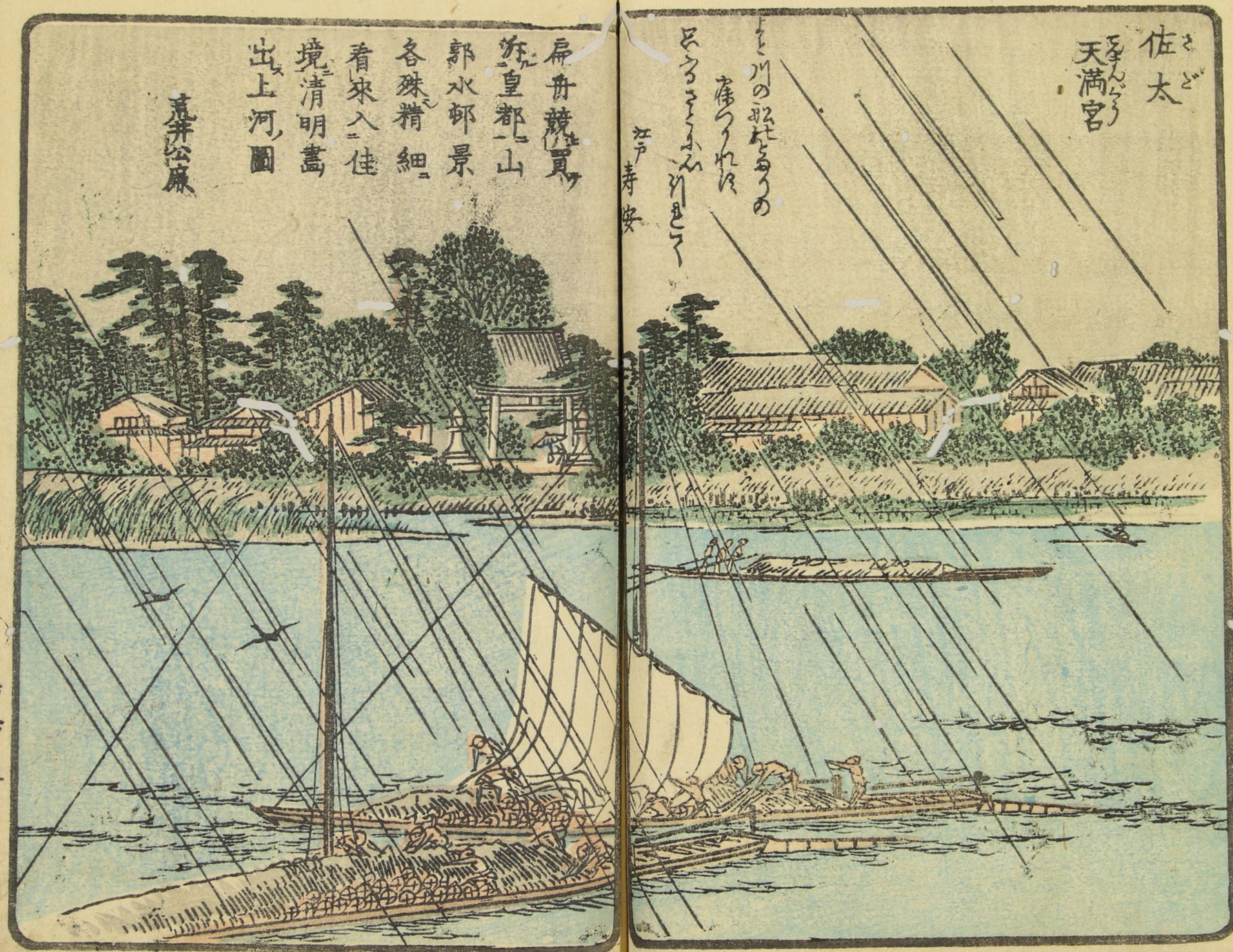
佐太天満宮

ちはやぶる
神の社なりの
ながれ
見るさへふかき
川のみなそこ

江戸 寿安

扁舟競買
皇都山
郭水邨景
各殊精細
看來入佳
境清明畫
出上河圖

嘉井公廉



竹内御門主良尚親王御副書曰

河州佐太宮ハ菅神の廟ゆゑ古代社あ絶たて

参奠の儀式も雖ゆゑと永井信州左守尚政朝臣再興せ〜ふ

ゆゑ壮麗目ゆ奪ひ見る者ハそゝ聽ものハのぎむ甚須

太上天皇百和香ゆ詠の扣枝とそゝ尚政朝臣ゆ給わるゝと弁の

庭ゆ捧ぎ〜瑞雞のゑ物ゆこれゆ伝〜右の御製と尚政

朝臣ゆ捧ぎ〜給ゆ即納之内陣の寶物とすゝぬ行の景ゆこれふ

かゆんされば神の徳いよ〜〜かれゞ清ゆといよ〜あらゝ

ものゝ波御製の由来とかゝ絶ぬ〜べゆよ〜〜ゆて止る

事ゆこゝゆぞいゝ〜〜ゆゝゆゝゆゝの強〜〜

慶安元年 大呂念五

北野社勢二品親王良尚書之

抑當社の勧請ハ年歴久遠して甚盪觴さゞがゆゝび漸永德年

中の社記と存ゆ願后荒蕪し〜〜社頭も神さび瑞雞もすゞ〜ゆ

るゆ〜ゆ慶安元年学四境守屋城州淀城主永井信濃守尚政矣

菅神と尊崇〜て再び社檀と新ゆ営ゆ〜其ゆゆ神威ゆちゞく

して社頭玲瓏たり其頃　太上天皇（後水尾帝）名香の二枝の梅を副て
御寄附ある時は卯月の末つかたふ社前の梅の二木の枝と
接ぎ勅のあり代りや神徳のそなさるや奇妙なる哉二枝とも焼
然と常ん時なれば花咲実を結びたり大君の御恵の御製の御
感涙を袖も梅も為育しやと四方の人くられと拝して感涙臍
を絞じ社頭の群とあやり原来此地い都往返の官道なれば旅客常た
絶し希ん淀河の流れて上下の船昼夜とのり往あひて
加中より眞居の整くと見るより遥拝して行るるなり

守口より此所まで僅路行程一里なり

菅相寺　佐太宮の後より天満宮奥院　本尊十一面観世音　行基作　長三尺　薬師佛　運慶の作
号に禅宗曹洞派正保元年建立

秋兼祠　本堂の傍り　連歌所　同上　永井尚庸碑　寺前にあり　儒官崔山野節撰

紫雲山來迎寺　右同所隣る大念佛宗鎮西派　本尊天華阿弥陀佛　脇檀の左座像阿弥陀佛
右へ開山誠阿上人の像備へ

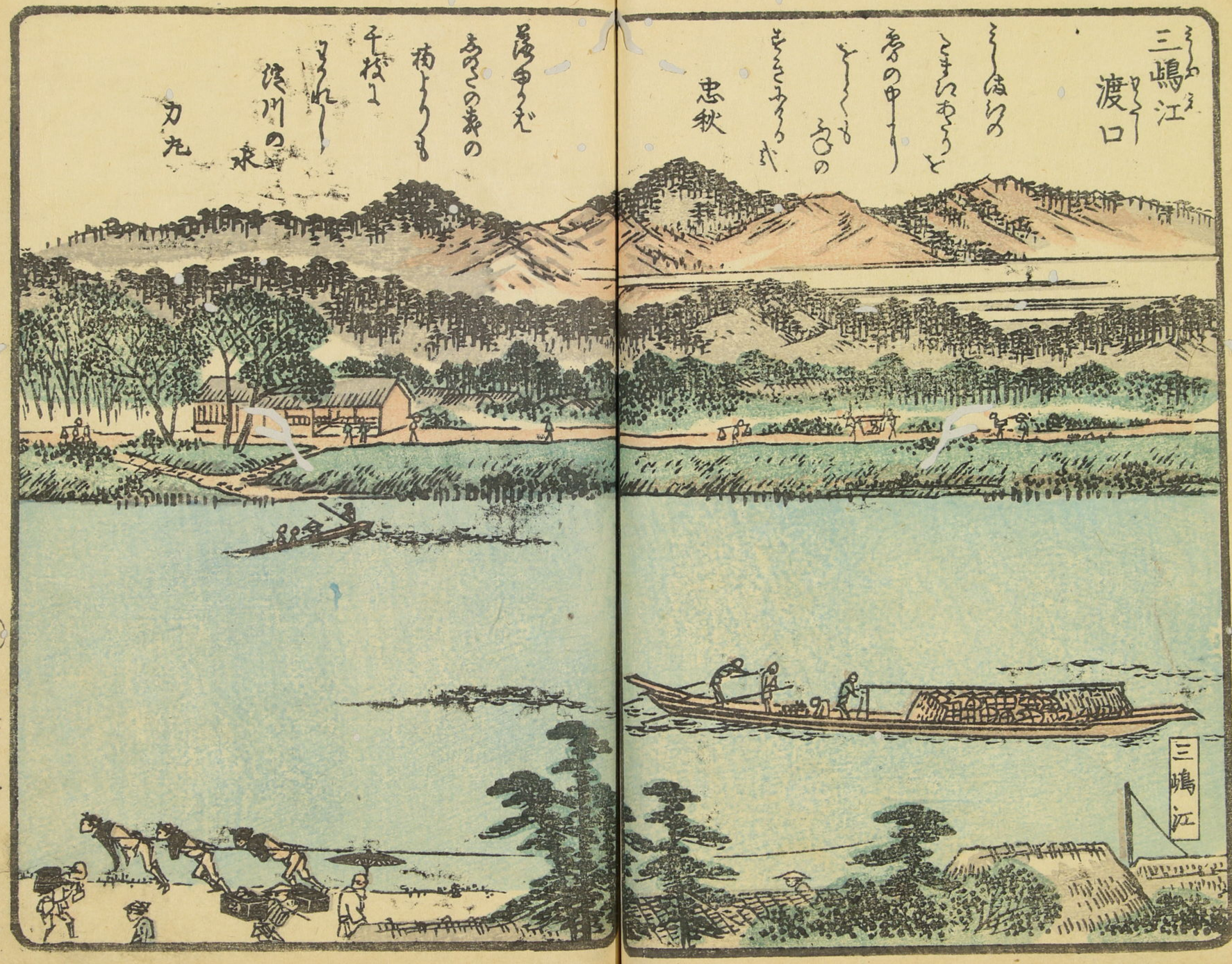
村上帝の勅願　観音堂　十一面尊　安置　剣守祠　八幡大神　星江相摸大明神
稲荷ホとある

大當山本尊の来由を傳聞る摂州深江里る法明上人を聖のり
山列雄徳山八幡宮る詣して融通念佛宗弘通を祈るひしるべ康
永元年六月廿三日夜石清水別當善法寺る神勅のつく曰我此山る垂跡

三嶋江渡口

忠秋

三嶋江



力丸

して和光の塵を汚すことのべ〻時機いまゞ至らざれば空く五百餘歳を
過せり大安寺行教法師を傳て天華の佛像今勅封して寶庫に
あり當時正に時機にあたれり早く勅封を解く汝より深く法明
法師に授くべしと霊告ありたるれば別當此よしを奏聞しく
同年七月十日宝庫をひらき法明上人に授与しより其より此本尊を
融通念佛宗の本尊として弘通しる今の本尊
これなり
拾別平野郷中大念佛寺の本尊も石清水八幡宮より法明上人に授けるよ
し縁起も大略おなじうし又信光の必淀村の源光寺の本尊も天華にて
法明上人授ふるとかゝ其是非とも定がたし又和泉国泉南郡も天華の仏像にして
其辺六十ヶ村月〻巡番にて毎月法会を勤むるよし

仁和寺渡口　一番村の上にあり拾別仁和寺村より拾川島下郡島飼の下村にわたる
船渡にて一町水上九三百三十間と云
○仁和寺　右渡口の一村なり寺にあり仁和寺村とよぶ
仁和寺村の上にあり一ノ世川に大洪水にて當村の堤破壊
○黠野　樋並八箇に溢るゝれと黠野切とかゝ
黠野村の上にあり日本紀に見へる襂子絶間の旧趾なり又大木集に出る
○太間　絶間の池も此地なり今は水なれ〻田圃となれり
○木屋　太間村の上にあり
○松が鼻　木屋村の上にあり佐大より西まゝ
水上九三十四丁まとかゝ
三嶋江渡口　松が鼻村の上にあり拾別島上郡三嶋江村より西南へ淀川をわたる
舟渡にて出口の渡にかゝ水上三百十間なり
○出口　松が鼻の上に茅屋一軒あり村へ堤より遥に内にあり村中に光善寺なり
一向宗の寺にあり控原堂と号す東六條に属す
蹉跎山天満宮　出口村の隣村中振にあり中振出口両村の生土神なり
例祭九月九日

本社祭神菅大臣　神像長四尺許　社傳云神自作　行者堂　稲荷祠　神樂所　共に社頭に

観音堂　鳥居の傍にあり　聖観音と安置　聖徳太子御作　光明寺　観音堂の傍　社傳龍光寺　観音堂の

安置　聖徳太子の作　慈上人の作なり

釈迦仏　聖徳太子御作　縁起あり　署之

時御息女　菅公流罪　御父に別れと惜しみて　世を去り　蹉跎

菅公流罪記　かりや姫とあり

玲々古跡よりて蹉跎山と号す　文選に蹉跎と訓ず　唐詩の注に失足

貌あるハ足ぞり又ハ蹉と訓ず

後の御自作の神像を世々祭り崇敬し奉る所なり

意賀美神社　伊加賀村にあり　延喜式に出

例祭九月九日

○伊加賀　出口村の上にあり　伊加賀川　伊加賀橋　これも同村にあり

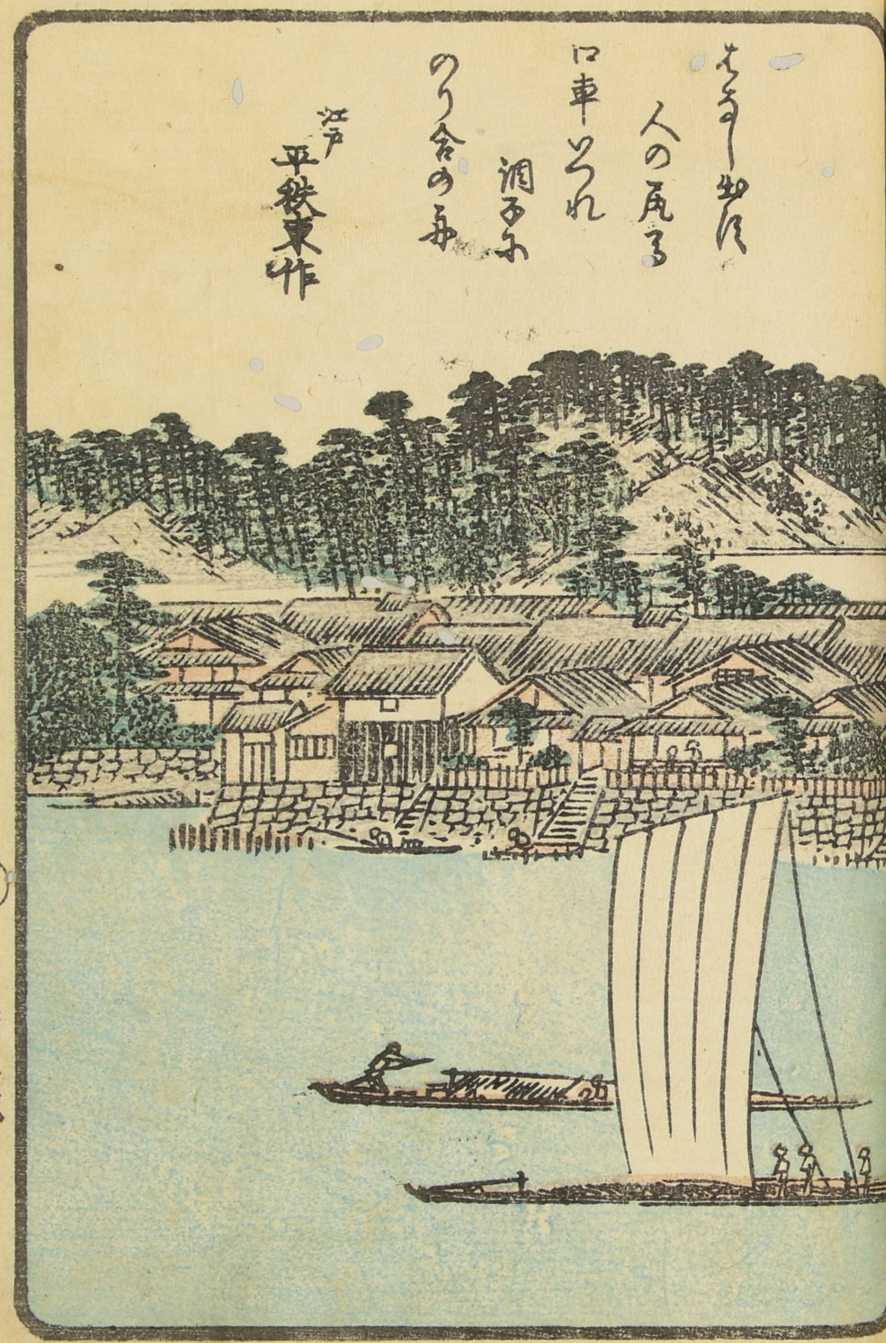
其二
牧方駅泥町

土人賣食
盪瓜皮朝
罵募銭何
所欺雅惡
不嫌如爵
瓔恰供支
脉倦眠時

嶋椶隱

人の尻ろ
口車ろれ
洞ろ
のろ舎の舟

江戸
平秩東作



其三

其四

牧方渡口

西岸大塚へ渡る

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

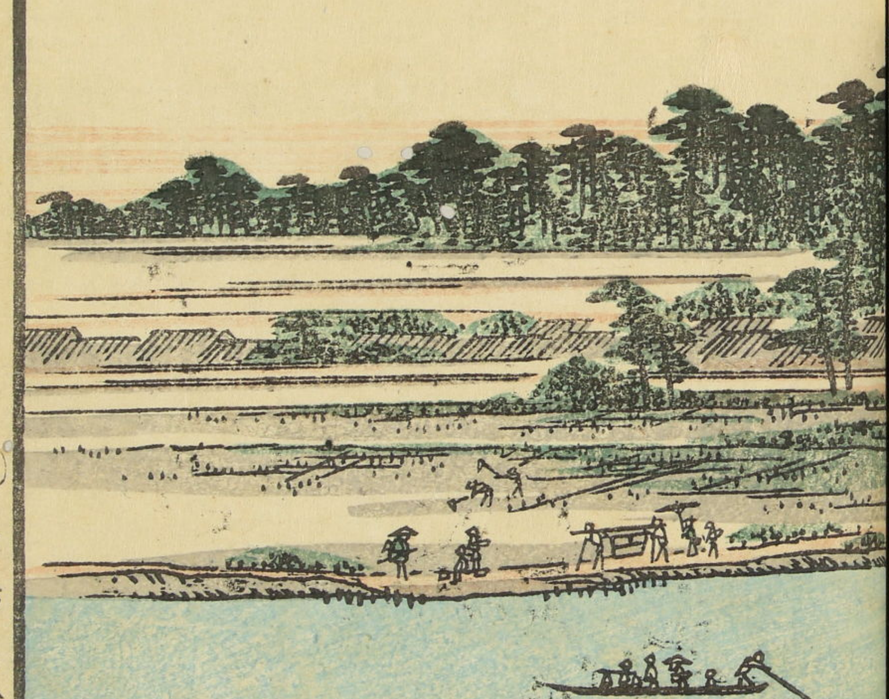
[illegible]

[illegible]

有大甚

百里河堤
西又東蓬
窓夢破蘆
荻風景々
嘲客鬻羹
餅不似滄
浪鼓粧翁

田畝



投方驛

伊加賀好ゑ〳〵寺口の駅より當駅まで陸路行程二里
松ヶ鼻より此驛まで水上凡三十町とかや

此驛ハ京師浪花の通路のうへ西国の諸侯方関東参勤の官道なるゆへ

絵舎本陳茶店貨食家多く將級盛の女まどひなく
昼夜とのに賑〳〵驛中泥町 三矢岡新町等の小名ありて
町續き頗る長〳〵の繁盛なり又両六條の市場も有く
東ハ願生坊といひ西と淨会寺といへ諸人常ニ間ひなし
貨食船ハ當所の名物なり〳〵 数とまく畳とまくさやうなる
船ニ飯酒汁餅などと貯へ上下の通船と見うけて鎰やうの
物と其船ニ打うち乗らうふ名引あけ眠うちあり船宮と起
〳〵声かまびすし〳〵酒食と商ふ船ニうれと唱うんう船
と号ハ往来の船ニ風波の難ひなる時ハ此毎く漕つれ
出〳〵夫と助らふ役あり〳〵と同じ

琴
哈〳〵蚊とうるさく起されてあるるも笠の浦の川舟 作云不詳

酒うりに美やぶつれ〳〵なる 梅園
ひうとに著乃うるうる賣うれ 治穂
ひうかうの礁もそ〳〵上り婦 登升

御茶屋　枚方の中にあり天正の頃豊太閤此地に藤鍋を建てゝ住給ふ

牛頭天王祠　同所北下町にあり枚方の生土神とす例祭六月朔日　九月九日

長松山萬年寺　真言宗　右天王の社頭にあり　本尊十一面観世音　春日作　座像　長八寸

薬師堂　本尊瑠璃光佛　弘法大師作　行者堂　記者堂の傍にあり　長三寸八分　枚小角と安倍

此地に往昔惟喬親王渚院あり時田猟し給ひ鷹を放ち

給ひ給ふれば山の大樹の枝に巣を営んで雛を生ず

親王歎怡あつて時く行啓し給ひ給ふ所時給ふ長松山と

号し甚鷹を愛し給ふれば此山に饗給ふ給ふ鷹

塚山も号くと又蔵谷と称するい　履中天皇の官庫の古

蹟なりと言傳へり尚本尊大悲尊像の来由薬師佛牛頭天王の

縁起ありとのべども事繁きれば略之

枚方渡口　此地より摂州島上郡大塚村に渡し毎日三度の渡しあり云渡の長九二百八十間ありと

監船所　枚方の駅にあり淀川の船と監し

京師角倉氏累世これを司る

天川　枚方の駅中泥町　東岡新町を過ぎ出る枚方入口より是迄水上九十二町

和州南田原星の森より出る枚方

○禁野　天の川の岸にあり往昔延暦年中帝こゝに遊猟ありその国民狩し禽獣を驅こゝに禁じ後この禁野こゝを禁野村といふ惟喬親王御車とゝゝ今村の名こゝに

車塚　禁野村にあり古墳なり

和田寺　禁野村にあり医王佛院と号し真言宗角基弘済大師俗に禁野の薬師といふ婦人安産と祈願霊應あり

本尊薬師佛　聖徳太子御作長三尺六寸脇士不動毘沙門天ともに弘法大師の作と云　此尊像ありあへ拝別

四天王寺に在せしを弘法大師こゝに近しこの其後貞観年中

文徳天皇第一の皇子惟喬親王　清和帝の御兄　こゝに遊猟の時三足の雉

波斯院に飛入り数に即こゝれを塚に築こゝ小祠を建させ給ふ

今の鎮守これなり其後康永の比慶盈こゝ楠黨和田新発意

源秀再興し因義和田寺と改む什宝の天師の墨跡の両界曼荼羅

あり寺前に御猟の楼あり　惟喬親王の樹ありとて枯れしこゝ

交野原　禁野中宮片鉾ふ徳名こゝ　帝御猟の所なり人呼

あれば交野のこゝかり教われぬやどりに人しこゝれば　業平朝臣

こゝかん交野のこゝの猟ぶと花の雪ちる春の暮　良成

○礒嶋　禁野村の上にあり所一村に指分り佛上郷と属し上郷に西の岸指列に

づれこゝこゝぶ淀川の流れこゝ近列の方へ交こゝこゝ

○渚　礒嶋の上にあり村中こゝ

陸路御道の順路なり　渚村にあり惟喬親王遊猟の時こゝに頓宮とこゝこゝ

波斯院古蹟　今寺とこゝ十一面観世音と安に真言宗の僧こゝと

[illegible]堂[illegible]五[illegible]孫[illegible]松[illegible]の[illegible]又傍に碑あり寛文元年十一月山城淀
城主永井侯の舎弟同伊賀守家臣松井吉通建之銘の向陽林子撰[illegible]

土佐日記　貫之土佐の任[illegible]の道[illegible]
[illegible]の院の梅の花とうつくしみ作[illegible]

君[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　[illegible]

かこ[illegible]の[illegible]の[illegible]て[illegible]　[illegible]

[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　俊成

渚杜　淀の流れ[illegible]と　渚岡　淀の院の[illegible]

[illegible]　もち[illegible]入[illegible]の渚の杜の[illegible]　内大臣

[illegible]　[illegible]の五の[illegible]と[illegible]　信明朝臣

坂川　淀村の上[illegible]水源穂谷より出ほとり[illegible]穂谷川[illegible]未坂村[illegible]淀川に入とり[illegible]坂川[illegible]

○坂　[illegible]の辺[illegible]天の川より此西まで水上九町三丁余

交野神社　坂村に[illegible]近邑八ヶ村の生土神[illegible]例祭九月六日此地浪華の艮[illegible]
本社祭神牛頭天王　土人河内国本地堂　本社の左傍に[illegible]本尊帝釈天
一宮神祠碑　寛文丁巳之春　菅原朝臣長親　篆額　前祠祝岡田皐　撰
伏見岡田宗興建　江戸海保皐鶴書　銘文畧之

○下嶋　坂村の上に[illegible]　下嶋渡口　下島より[illegible]厳[illegible]に[illegible]門と接[illegible]

○上嶋　下[illegible]村の上に[illegible]

船橋川　上[illegible]村の端に[illegible]水源荒坂の嶺の南より出[illegible]招提村を歴[illegible]舟橋村
[illegible]淀川に入坂川より此所まで水上凡十八丁九六間[illegible]

楠葉渡口

淀の泡
くもてまもる
淀川
四千石
宇鹿

淀川の水は西の方へとあつまりて海へ流れ入る

水の上へ上る舟の水を下へ上りて掛かりと切こり廻の上まで一里余り引のぼり又舟ふのりくだの水の上へ上まで三十丁余りこのぐる又早天つきふりて水わきとこの西の方へとあつまりて海へ流れ入る

往昔此川水勢つよくして橋を架しがたし舟橋をもつて往来せり是舟橋川といふなり　今街道より内へ入る舟橋村と云ふあり

あれや此宮よ波あらぬ天の川交野辺ゆけば渡る舟橋　光俊

○樋之上　右川の傍に有る南村の東に舟橋村あり二の宮と称する神祠あり

辺隣　三ヶ村の生土神と云ふ例祭九月九日

樋の上の上に有る故方より此所まで懸路行程二里　続日本紀云

○楠葉　元明天皇四年正月始置樟葉頓宮一云くれば往古此所歌枕

なるべし西村中より男山八幡宮に参詣の路あり又いくさの山辺を樟葉野と云ふ又樟葉宮と云ふ行宮なり日本紀に見へたり

続古　暮ぬとて宿をとうへの猶かげをつる樟葉の秋の夜の月　関白左大臣

楠葉渡口　同所に有る摂州島上郡高槻渡川の舟渡なり渡の長さ百七十間云

彌勒寺古趾　楠葉村に有り一名足立寺と云ふ

一別八幡の古址と見へたり号に本尊釋迦佛立像長六尺

釋迦堂　同村に有り一名久修園院と号に本尊釋迦佛立像長六尺

赤栴檀と云ふ

藤原澄澤別荘趾　同村に有り字を茨原と号に傳云桓武天皇交野に行幸の時

此別荘を行宮と云ふなり

金川　同村の北の郷に有る舟橋川より此所まで水上凡三十二丁余

此川河内　山城両國の境に

金橋　右金川より北詰より山列澱喜郡まで

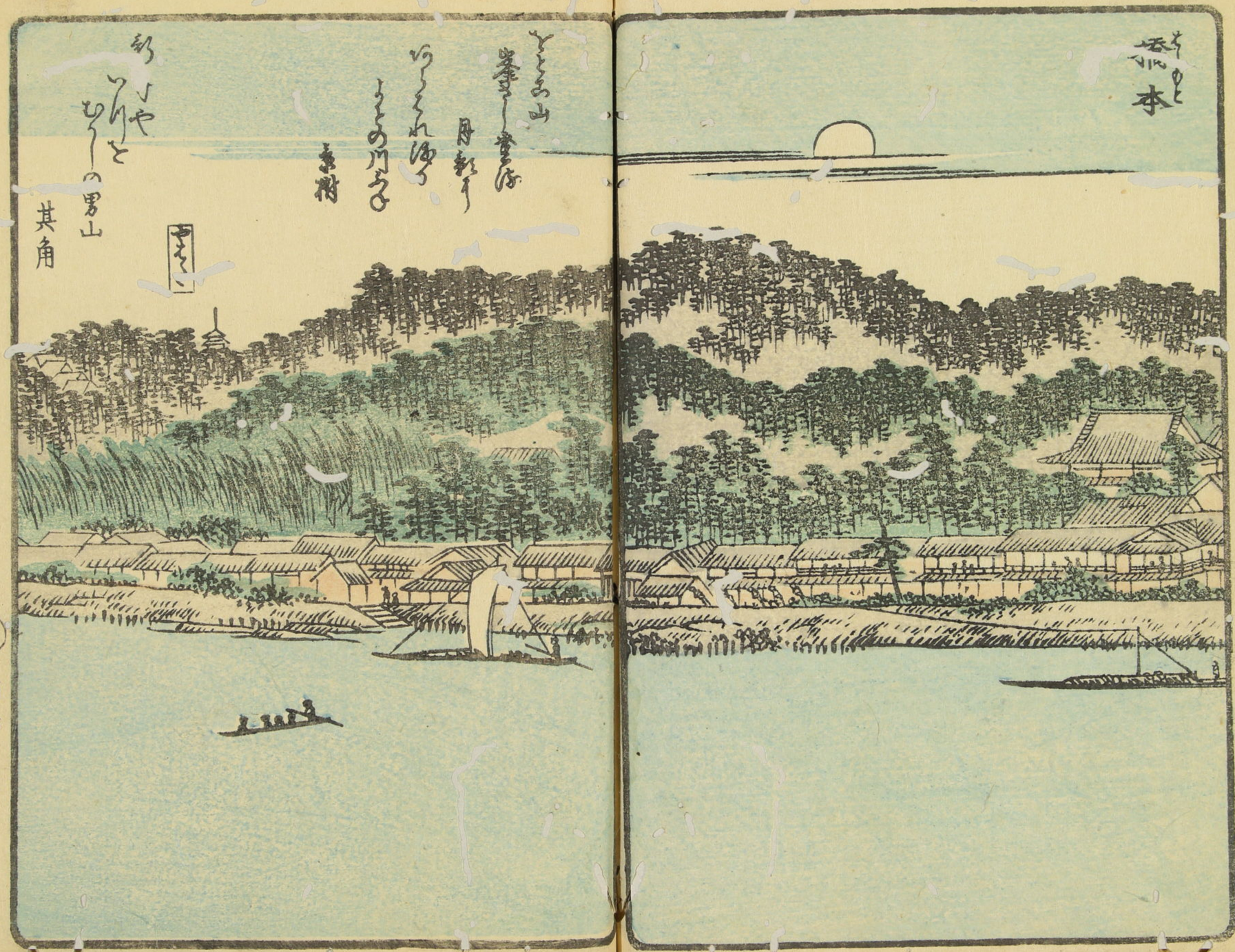
廣瀬渡口　金橋の上に有る摂列島上郡廣瀬郷に渡る号く渡の長さ

凡九十間にて俗に下の渡と云ふ此上に渡口有る故

橋本驛　金橋の上に有る大坂街道の駅にて人家の地十一丁あり茶店旅舎

多い有る繁花なり八幡に参詣の人多く此地に往来し大橋あり其橋の詰なるゆへに橋本と

此地に往古白山崎より架せし大橋あり其橋の詰なるゆへに橋本と


本
其角

其二

八十ヶ山路の夏草
踏分て
人かよはむ

古傳

屋むけく
八橋と
こゝも偽る厚

尚白

神游溶々匹練
清西山寫影蜎
新晴秋帰未叫
春將老但誦警
記為古情

嶋崎隱

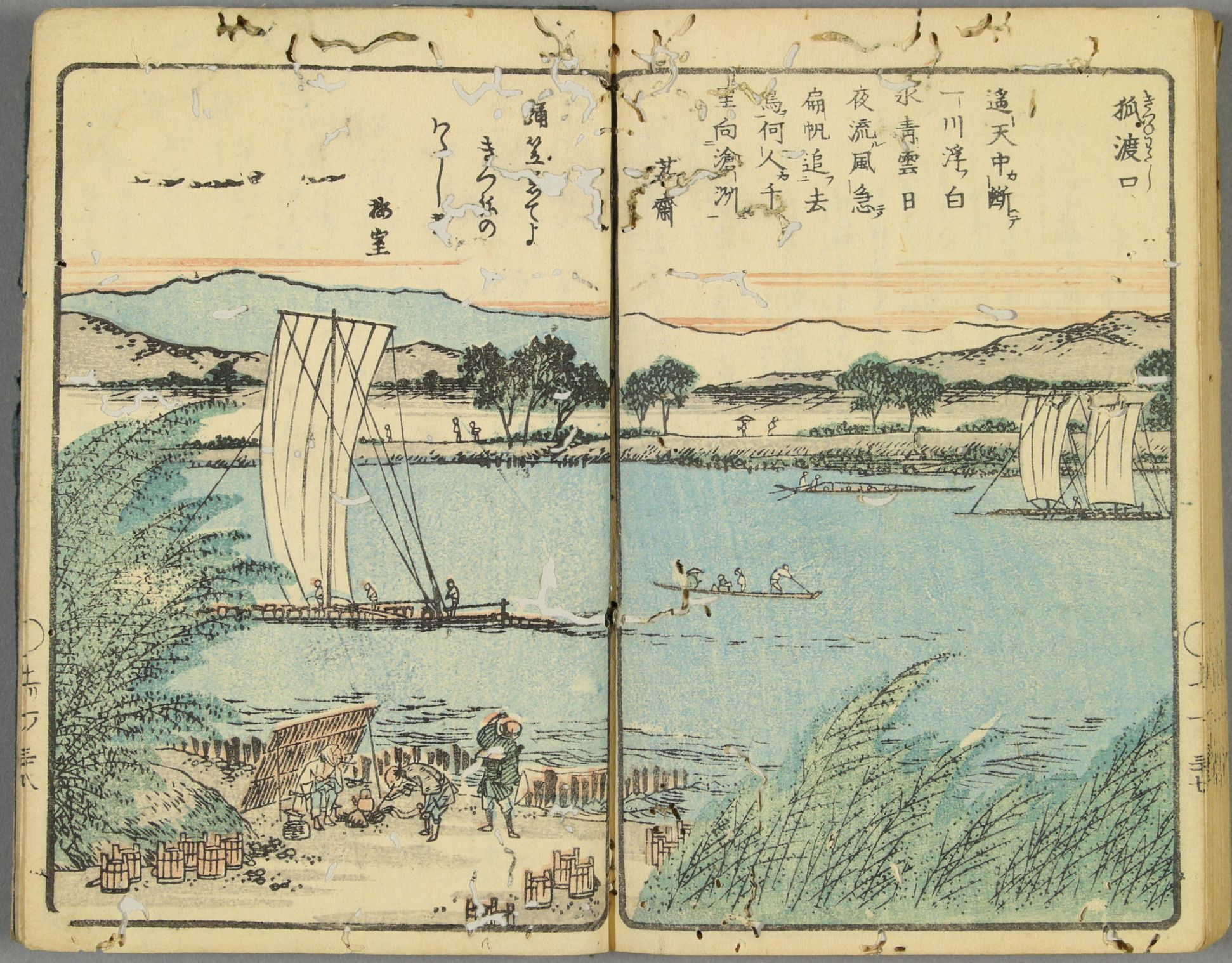
号くとぞ今中之町と云る浜橋の渡にて山崎橋延喜式おくび
文徳實録に出て今は船とかる

橋本渡口 右記に云の如く傷に別後川と山崎とを隔て又一説に山崎の橋の所
駅中の右の方に石壇鳥居あり山路十余町中程に狩尾の社と地主の社
雄徳山泰詣道 八幡宮鎮座以前在しかの傳ふ

○楯之上 橋本の町をかれとかく名物の小豆餅と

石清水正八幡 山別綴喜郡男山鳩嶺に鎮座に雄徳山と書に又嶺と香呂峯と
紀に山下に民家十四町あり高家多く此辺の都会の地なり
本社三座 中央 誉田天皇 又應神天皇と孫に人王十四代仲哀天皇第四の太子
東之間 玉依姫 鸕鷀草葺不合尊の妃 西之間 神功皇后 應神天皇の御母

當山の御鎮座は貞観二年六月十五日筑紫宇佐八幡宮御託宣にて
我王城の近に迂坐して鳳闕を守護し國家を安養せんと
言のまに朝廷數悦びなせるの此地に神殿を営み永崇敬しる
八幡の神号は筑紫宇佐峰験の松の下に八流の経降下る赤幡四流白幡四流則其
形を社を建て正八幡宮と崇め奉る 又一説に和氣清麿に流して云れ
誉田八幡丸と云 本社の後の傍に
名のるなり 若宮 仁徳天皇と云る 姫若宮 若宮に隣る宇礼姫 呉礼姫
水若宮 姫若宮の後に宇治の皇子と 上高良社 本社の後の傍に
仁徳帝の御弟なり 武内大臣と云る
住吉社宝蔵影向櫻 四廊の橘樹 神殿の前に有 楠樹 東廻廊の外に
大塔 大日堂の二重 阿彌陀堂 大塔の三の重の内に有 元三大師堂 三の重の内に 神鑾舎 北向に



孤渡口

遥天中断
一川浮白
水青雲日
夜流風急
扁帆追去
鳥何人千
里向滄洲

茗齋

蒲芝そよ
きらゝかの
ゆうべ

梅室

琴塔 廻廊の外東にあり毘沙門天を安置 軒の四方に琴とかけて風鈴のごとし

石清水 琴塔の下にあり後に石清水を開き

繪 松もあり又も苺もを石清水汲まんとつくまうん 貴之

新 神垣やうみもと家よる石清水とせんちゝもの末ぞ久しき 為家

細橋 別宮社の下にあり石を布て橋の形をなす 石清水の上にあり八幡宮の二神の向の地

観音堂藥師堂 ゆうたくやきの

愛染堂 三の宮の

瀧本坊 石清水のかたわらにあり 松尾堂

同向

閑山堂 同向にあり

三鳥居 大江姓永井尚政建之 三大師堂の前にあり石柱に銘と錫に正保二年正月従四位下行信濃守

一鳥居 七曲の

太子堂 七曲の上にあり

下高良社 二の宮 藤大臣連保と

禁有 千法の書願を以て奉行

女神堂 一の宮の

都人正月十五日十九日十六日の疫疫と

高山に祭

民将来の厭目を祈 破魔弓毛鑓を求の

本地堂 疫神堂の隣 本尊 弥陀佛脇士観音勢至

象二 鬼と遊ぶ世俗 れと呼号

と書 八堂前に鐵燈籠 一鳥居 疫神堂の後門外にあり八幡宮の額を佐理の

豊臣秀頼公の御寄附 筆なり後世旧額 松花堂これと

猶 放生川 八月十六日放生供養あり 高橋 反橋 安居橋 南のこと

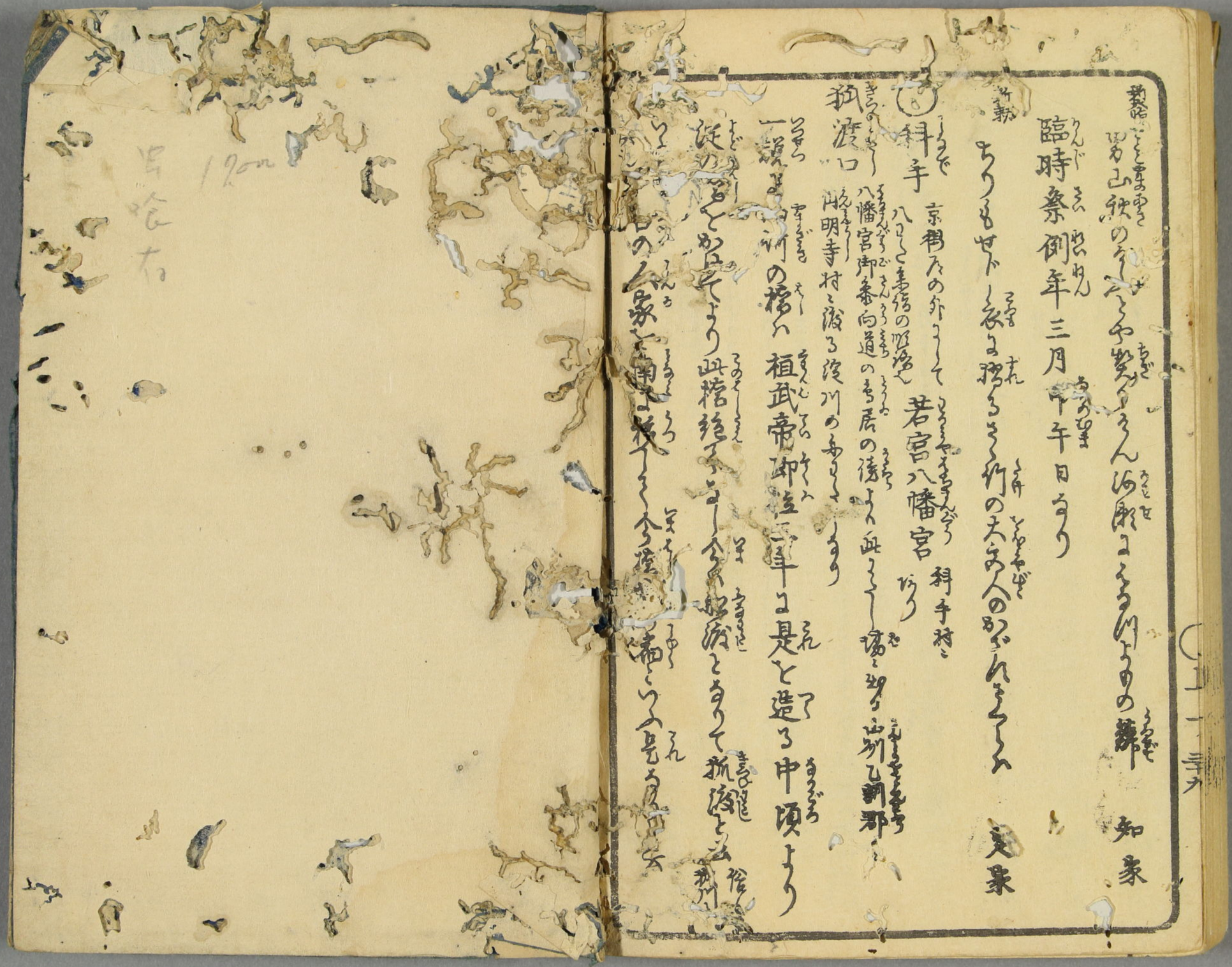
神宮寺 宿院科手の間にあり大乗院と号 本尊千手観音 神殿に神功皇后

放生會例年八月十五日下院へ神幸 同日還幸 路ふるり

十六日放生川の所へ社務以下 諸の魚を放ちのこる程に

両日に遠近より詣人群集 宿院の辺に芝居数下所種々の

物賣出 只地もうり市とるに俗に神慮のめづらしうぐ



臨時祭例年三月中午日なり

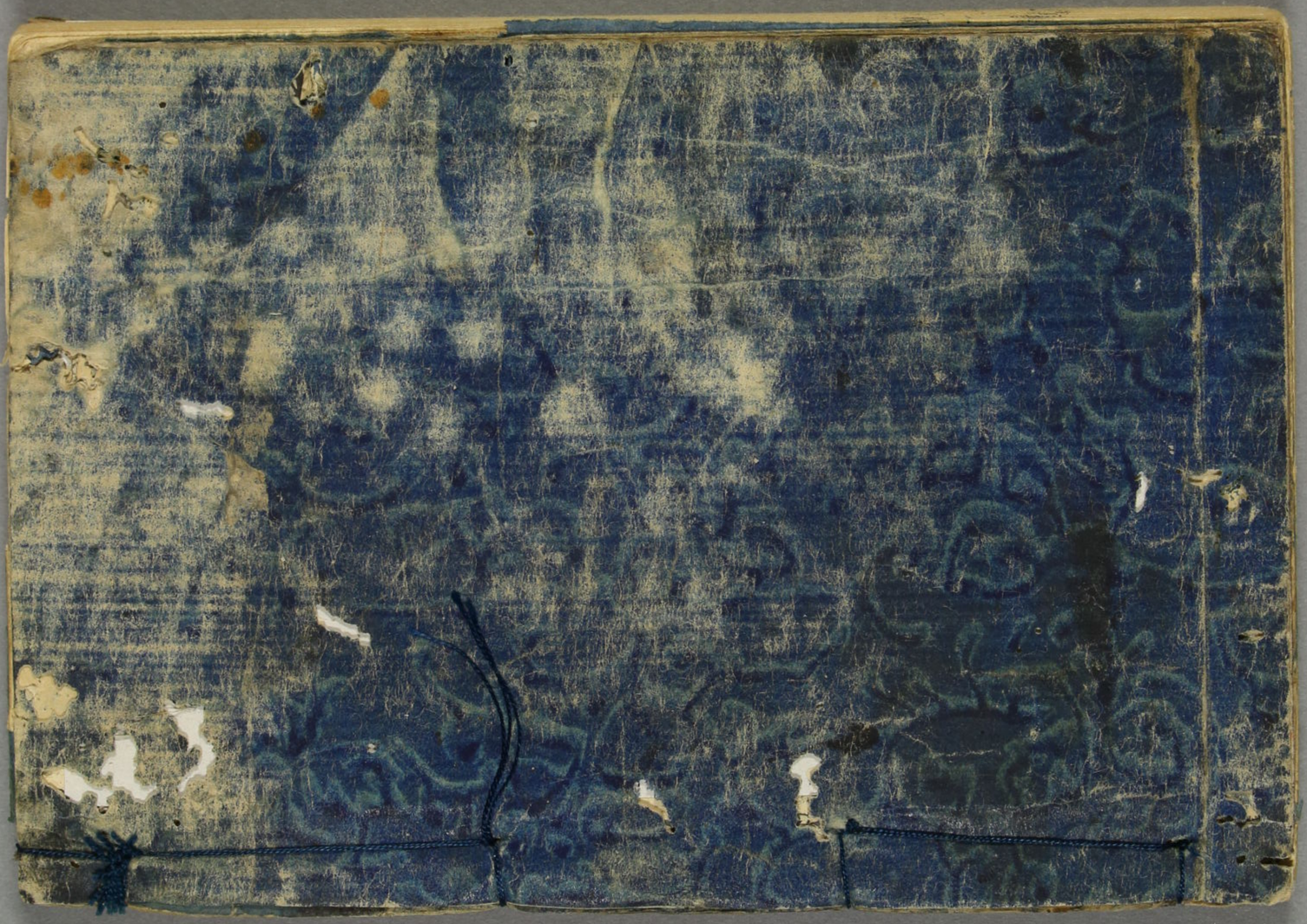
ちりもせず長き孫なる行の大人のかぐれとなん　定家

拝手　京都の外にて　若宮八幡宮　拝手村と

八幡宮御参向道の右居の後に西に塚あり山城国那郡

孤渡口　西明寺村と渡る淀川の西なり

一説に河の橋　桓武帝御造営年号是と造る中頃より

淀の渡とかいてより此橋絶えて孤渡と云

[illegible]